

## 審査の結果の要旨

氏名 金 亨彦

### 論文題目

集合住宅における外部空間と私的コミュニティ活動との関係に関する研究

本論文は、集合住宅における外部空間と私的コミュニティ活動との関係を分析することにより、コミュニティの形成と活性化の面で外部空間自体が持っている潜在的な可能性を明らかにすることを目的としている。

第1章では、背景として、現在大都市におけるコミュニティの役割の縮小に対して、自治会や施設の活性化などの対応はなされてきたが、集合住宅団地の外部空間の役割に対する認識が低いことをあげている。

第2章では、コミュニティとコミュニティ意識についてまとめた。

ここではコミュニティ意識を「一定の地域に住んでいる居住者たちの場所に対する愛着と満足感を基に形成された所属感、精神的な連帯、一体感、共通の価値体系」と定義し、コミュニティ意識の形成要因として、社会経済的な地位、同一性、私的交流、公的活動、そして満足感等で構成される「社会的な要因」と、近接性、道路の種類、中心と境界、便宜施設の分布、そして密度等の「物理的な要因」があるとしている。

第3章では、開放空間と囲繞空間の概念を定義づけた。

ここで外部空間は、「人間によって創造された目的のある外部環境で、自然以上の意味のもつ空間」で、人間の活動と精神的な意味が加わったとき、外部空間になると定義し、「開放」と「囲繞」という概念は、場所の性格を決める要素の中で最も重要な要素の一つであるとした。「開放空間」とは開放感のある外部空間で、人間の行動が発生する位置は、その場所の中心部ではなく、建物、壁、樹木等に囲まれ保護されている空間で、人間は自分の位置をより確実に占有するとともに、広く開いている外側を眺め、やすらぎを感じ、その場所を好む「行動」が生じるようになる。このように物理的要素によって取り囲まれている状態を「囲繞」といい、取り囲まれている空間を「囲繞空間」という。

第4章では、集合住宅居住者に対するアンケート調査により、外部空間と外部空間での私的コミュニティ活動に関する居住者の意識度について調査した。

外部空間に関する評価と満足度の面では非常に肯定的であるが、外部空間を構成している各空間に対する全般的な認識度は、自分がよく使っている空間を除くとそれほど高くない。

外部空間での私的コミュニティ活動に対する全体的な評価は非常に肯定的であるが、実際に活動が起きている回数は少なく、内容も貧弱で、また集いに対する意欲も

それほど高くない。

第5章では、外部空間の特性による各種行動の変化と傾向についての観察追跡調査とインタビュー調査により、外部空間と私的コミュニティ活動との関係について分析した。観察追跡調査は各団地別に5回合計15回、120時間あまりに及ぶ。

観察に先立ち、住民たちが外部空間から受ける印象などを含めた全般的な認識度と開放と囲繞に対する認識度の調査と、各空間での写真撮影などの方法を通して、視線の確保という概念から対象団地の外部空間の開放と囲繞を特定した。

実際観察追跡調査により外部空間で住民たちの活動を、内容から親密優先型(I型)、プライバシー優先型(P型)、活動優先型(A型)、滞在時間から長期滞在型(L型)、短期滞在型(S型)、通過型(T型)の6パターンに分類し、各調査対象団地の外部空間が持っている開放と囲繞の性格とこの行動パターンとの関係を分析した。

全体活動と外部空間との関係をみると、私的コミュニティ活動の全体的な発生傾向は、P型とS型が非常に多い。また、A型とL型が相対的持続時間が長い。外部空間の特性では、全ての対象団地において、囲繞空間ではI型とP型、T型とL型、開放空間ではA型、S型の行動が多く発生している。平均持続時間では、同じく、囲繞空間ではI型とP型、T型とL型、開放空間ではA型、S型の平均持続時間が比較的長いのが明らかになった。

開放空間では、囲繞空間より比較的A型の発生頻度数が多く、囲繞空間では、開放空間より比較的P型とI型の発生頻度数が多く見られるのが明らかになった。

そして第6章でこれらを総括した。

結論として、各集合住宅の外部空間での私的コミュニティ活動が、設置してある施設物や外部空間に対する住民の個人的な傾向と満足度などの様々な影響にもかかわらず、開放と囲繞という外部空間の性格によってある程度きめられたパターンを見せている。外部空間の性格と居住者の私的コミュニティ活動との間に緊密な関係があることが示された。

以上のように本論文では、居住者に対するアンケート調査と観察追跡調査により、集合住宅における外部空間と私的コミュニティ活動との関係を分析することにより、コミュニティの形成と活性化の面で外部空間自体が持っている潜在的な可能性を明らかにすることができた。

施設やイベント企画によるコミュニティの活性化だけではなく、日常的な外部空間のコミュニティに対する可能性を持つことが明らかにされたことの意義は大きい。以上のように本論文は建築計画学の発展に大いなる寄与を行うものである。

よって本論文は博士(工学)の学位論文として合格と認められる。